

Meet the Musicians

楽 団 員 紹 介

最年少入団、パワフルで実直なヴァイオリニスト

中村 楓子

Fuko Nakamura

[第1ヴァイオリン奏者]2014年11月入団

趣味:宴会!(なので今はとても辛いです)



©N.Ikegami

オーケストラを“実地で学ぶ”

2歳のときに観たジブリ映画「耳をすませば」でヴァイオリンに一目ぼれ、とにかく「やりたい」と3年間せがみ続け、5歳でヴァイオリンをはじめました。コンクールなどは受けず、ずっと“楽しく弾いてきた”ので、きちんと音楽と向き合ったのは中学生になってからでした。プロを目指す人は幼稚園で学ぶような基礎練習教本(カイザーやセブシック)はこの頃初めて弾きました。中学3年生になり進路に迷っていた時に先生から音楽高校受験を提案され、何とか滑り込み、3年間勉強。その後「早く自立したい、でもまだ学びたい」と、大学ではなく桐朋学園大学内のディプロマコースに在籍。誰かと共に音楽をすることが好きだったので、自然とオーケストラ奏者を目指していました。2年目の春、初めて受けたオーディションが東京交響楽団でした。

プロのオーケストラ奏者には珍しい経歴かもしれません。ジュニアオケに在籍したこともなく、主要な曲を学んできていないので、「人より遅れている」という思いが常にどこかにありました。最初は何もわからず、ついていくことに必死。でもありがたいことに、先輩方が本当にあたたかく、沢山のことを教えてくれました。20歳の誕生日に、お酒の味を覚えてくれたのも楽団員のみなさん。今では楽団内でも知られる“飲んべえ”に成長してしまいました(笑)。とある演奏会後の打ち上げで、酔っぱらった私が

ノット監督にだる絡みをして監督が苦笑しているという、禁断の動画を篤子さん(首席ヴァイオリン奏者)が持っています……。このコロナ禍が収まるまでは難しいですが、はやく“大宴会”をしたいです。

東響で8年=ノット監督と8年

今年はジョナサン・ノット×東響のSeason8、私のオケ人生も8年目になります。「ポエム・サンフォニック」「浄夜」「グレの歌」に「夜の歌」…ノット監督との演奏会は、印象に残るものばかり。最初は受け止めるばかりで精一杯だった音楽作りも、近年は相互のアプローチで、どんどんグレードアップしているのを自分自身でも感じています。どんなに忙しくても、常にチャレンジを楽しむ楽団の雰囲気は入団時から今まで変わりません。

月並みな言葉ですが、音楽が“上手”ではなく、音楽が“心に届く”音楽家になれるよう、これからも精進していきたいです。



楽器を持って10ヶ月目

インタビュー:事務局